

(公社)日本地すべり学会

## 東北支部だより

vol.  
35

東北支部事務局

〒980-0012  
仙台市青葉区錦町1丁目7番25号  
株式会社復建技術コンサルタント内  
担当:大澤、甲斐 ☎022-262-1234

## ご挨拶

東北支部長 森口 周二

(東北大学 災害科学国際研究所 准教授)



支部会員ならびにオブザーバーの皆様、および関係者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。支部だよりの発刊に際しまして、支部長として一言ご挨拶を申し上げます。

支部長を拝命してから1年半が経過しましたが、いまだ支部長としての経験と知識が不足しており、関係者の皆様の支えのおかげで支部としての運営が成り立っている状況であります。特に、今年9月17～20日に仙台で開催された第63回研究発表会および現地見学会(宮城大会)の準備と当日の運営においては、多くの皆様にご尽力をいただきました。そのおかげで、研究発表会の参加者が607名(現地560名+Web47名)、意見交換会の参加者が450名、現地見学会の参加者が113名(3コース合計)となりました。また、新技術セッションでは当初予定よりも多い40ブースまで拡大して当日の運営を行うことができ、大変に盛況なイベントを成功裏のうちに終えることができました。さらに、全国から参集頂いた参加者の皆様から多くの最新の研究成果をご披露頂くとともに、その内容についての活発な議論が展開され、貴重な情報交換の場となりました。その結果、大会の期間中や開催後には、「東北支部、よくやった」というお声を多く頂くことができました。ひとえに、皆様のご尽力のおかげであり、改めて、温かいご協力とご支援に心よりお礼を申し上げます。また、宮城大会の準備を並行して進める中で、例年実施している総会、講演会・研究発表会、若手講習会についても開催してまいり

ました。そういった活動の中で、東北支部の皆様やその関係者の皆様の学会活動に対する熱い想いと人間味あふれる強固なネットワークを感じる事ができ、そのような環境で支部長を担当させていただいていることを大変有難く感じております。

さて、2024年は元日から能登半島で最大震度7の地震(2024年能登半島地震)が発生し、大変な年明けとなりました。また、その地震の被害からの復興の道筋が十分に見えない状況の中で、9月末にはその被災地で豪雨災害が発生しました。また、東北でも例年同様に豪雨による被害が発生しており、その頻度や被害レベルが年々と高くなっているように感じられます。それらの災害の調査や復旧対応にあたられた方も多くいらっしゃると思います。我々が向き合っている地すべりやその他の斜面災害は、地震や豪雨による被害を著しく拡大するものであり、我が国のみならず、同じ境遇にある諸外国の共通の悩みでもあります。そのため、今後も日本地すべり学会が担うべき役割は、今後ますます大きなものになっていくことは間違いありません。日本地すべり学会の活動を通じて、皆様とともに技術や知見を磨き上げ、それを次の世代へと確実に継承し、災害とうまく共存するための社会を創生する努力を続けてまいりたいと思います。今後、支部活動をさらに盛り上げていくため、引き続き、ご協力をお願い申し上げます。

## 2025年度主な行事予定

## ■支部開催事業

- \*東北支部・総会・講演会  
(2025年5月中旬予定、仙台市)
- \*講演会及び研修会  
(開催は随時ホームページで案内)

## ■本部事業

- \* (公社)日本地すべり学会社員総会・シンポジウム  
(2025年6月、東京都)
- \* 2025年度(公社)日本地すべり学会  
第64回研究発表会及び現地見学会  
(9月16日～19日、奈良春日野国際フォーラム 麓(いらか))
- \* 最近の土砂災害報告会、各種研修会  
(開催案内は随時ホームページに掲載)

## 盛合禧夫先生を偲んで



Tomio Moriyasu

故 盛合 禧夫 先生  
(平成11年6月退職記念誌の肖像写真より)

### 東北工業大学 名誉教授 千葉 則行

北地方独特の国土の防災・減災の観点からの研究の必要性を強調されてきました。当時の地すべりの調査・研究は防止工事を主目的としたもので、力学的な考察に終始しておりました。しかし、先生は地すべり被災地での地質調査を数多く実施し、地史的観点からみた地すべり発生素因の背景もまた重要であることを明らかにしてきました。この成果は、東北支部による「東北の地すべり・地すべり地形」の出版(平成4年)の動機ともなったものです。同書は東北地方の地すべり・地すべり地形分布、解説を内容とするもので、当時新進気鋭であった宮城豊彦先生(現東北学院大学名誉教授)らが中心となって編纂されました。現在でも、地すべり防災を検討する際には必須の書として研究・行政関係機関等に活用いただいております。以上のように、支部の設立、その後の支部活動を終始リードされ、東北地方における自然災害の実態把握・対策・啓発に多大な貢献をされてきました。こうしたご功績が認められ、平成13年には本部から「谷口賞」を授与されております。

大学内では学内行政の主要な役割を担い、学長補佐、理事、評議員、学生部長、教務部長などを務められ、東北工業大学の発展と充実に貢献されてきました。一方、大学外では学界はもとより、官界、社会におけるご活躍はきわめて広範に及び、通産省金属鉱業事業団検討委員をはじめ、宮城県環境審議会委員、自然災害の事故における対策委員、仙台市工業教育協議会会長などを就任されるなど精力的に活躍されてきました。

海外においては、平成2年より17年間にわたり、上智大学アンコール遺跡国際調査団に参加し、アンコール遺跡の学術研究委員として土木地質学の立場から同遺跡の修復保存調査を担当されました。併せてプノンペン芸術大学において修復調査等の技術養成の講義もされ、世界遺産である同遺跡の保存に大いに貢献されました。これらの活動業績が評価され、平成19年にカンボジア王国のシハモニ国王陛下より、「サハメトリ賞」の勲章を授与されました。

平成23年には、国内は勿論のこと、海外も含め、永年にわたる教育研究と学会・社会活動のご功績が高く評価され、春の叙勲で「瑞宝小綬章」を受賞されました。何事にも果敢に取り組んでこられた先生自身にとってひときわ感無量なことではなかったかと思えます。先生を師事する私どもにとっても、誠に慶賀なことでありました。

先生の姿勢や活動は、私たちに与った模範となり、ご功績は決して忘れることはありません。ここにあらためて心から感謝と敬意を捧げます。盛合禧夫先生のご冥福をこころよりお祈り申し上げます。

2024.11.30 記

東北支部顧問をされておりました東北工業大学名誉教授の盛合禧夫(とみお)先生が、今年9月4日満92歳にてご逝去されました。先生は昭和7年仙台市のお生まれで、仙台第一高等学校から東北大学理学部地質学古生物学教室へと進まれ、昭和32年に東北大学大学院理学研究科を修了。その後、日鉄鉱業(株)に入社され、地質鉱床調査、砕石調査、土木地質などの調査・研究に従事されました。昭和42年に東北工業大学工学部土木工学科の開設と同時に助教授として招かれ、昭和52年4月に教授にご昇進し、平成11年に東北工業大学をご定年退職されました。その後3年間、客員教授をお務めになり、平成14年には長年の教育・研究のご功績により東北工業大学名誉教授の称号が贈られました。

教育・研究では昭和39年に「釜石及びその周辺の地質・地質構造(欧文)」と題した論文により、東北大学から理学博士号の学位を授与されました。この研究により、当時北上山系のうちで全く不明であった釜石地域の地質構造を解明した業績は、今なお学会で高く評価されております。こうした専門分野の知見を活かし、大学では地学、土木地質学などの授業科目をご担当されました。当時は、応用地質学系分野を指導される大学教員が少なく、東北工業大学はもとより、東北大学、宮城教育大学、山形大学、八戸工業大学など他大学からの強い要請により非常勤講師もお務めされ、豊富な話題を盛り込みながらの生きた講義を実践し、多くの学部学生・大学院生の教育・研究指導に情熱をもってあたられました。

先生ご自身の研究活動は、特に地すべりなどの斜面災害分野の学会活動にめざましいものがあり、指導的役割を果たしてこられました。また日頃活動する中、地すべり学会の東北支部発足の必要性を痛切に感じ、昭和60年5月11日の支部発足の数年前から、本部各部との調整、支部発足にかかわる諸条件のクリア作業を実施し、支部発足に向けてご尽力されてきました。

支部発足後は支部長、本部運営委員を歴任しながら、東北地方の開発・発展の重要性とそれに伴い発生し得る潜在的な地すべり災害に対応するため、特に東

# 宮城大会開催報告

## 宮城大会 幹事会

### 1. はじめに

仙台国際センターを会場に、令和6年9月17日(火)県民講演会、18日(水)～19日(木)開会式・特別講演・研究発表会・意見交換会・閉会式、20日(金)現地見学会の日程で宮城大会が開催されました。Web聴講の47名を含む参加者総数は656名(事前申込み671名)と非常に多くの方にご参加頂きました。

ここでは、各部門の責任者に大会を振り返って貰いながら、大会の様子をお伝えしたいと思います。



▲大会会場入口の看板

### 2. 県民講演会

県民講演会は、研究発表会に先駆けて一般の方に向けて企画したイベントです。防災分野にご精通のあるお二人の講師をお招きし、研究発表会の前日に開催しました。

司会を東北大学大学院工学研究科土木工学専攻の山川優樹教授が務めました。

#### 【日時、会場、参加者数】

日時：令和6年 9月17日, 17:00～19:00  
会場：仙台国際センター展示棟 展示室2  
参加者数：約200名

#### 【演題】

- 第1部 『大雨災害から身を守る  
～防災気象情報の利活用～』  
講師：仙台管区气象台 気象防災情報調整官  
鈴木達也 氏
- 第2部 『災害の歴史性～宮城県  
阿武隈川流域の歴史から考える～』  
講師：東北大学災害科学国際研究所  
歴史文化遺産保全学分野准教授  
川内淳史 氏



▲県民講演会の様子

今回の県民講演会では、東北地方でも今後の激甚化が予想される豪雨災害に焦点を当て、「気象の変化予想とそれへの備え」、そして「先人が洪水災害などにどのように対処してきたか」をコンセプトとしました。入場条件を「無料で、予約も不要」としたことで事前に来場者数を把握することが困難でした。また、会場自体の構造上の影響により、一部音声聞きづらい等、いくつかの困難もありました。しかしながら、地すべり学会が主体となり、一般市民に向けて広く防災意識の向上を図るというスタンスで開催できたことに意義を感じました。

(担当 押見和義)

### 3. 研究発表会、ポスターセッション

#### (1) 研究発表会

研究発表会は、9月18日の午後と19日の2日間にわたり開催されました。発表は4つの会場に分かれて、全132編の口頭発表が4つの特別セッションと6つのテーマにより実施され、活発な質疑が繰り返されました。

地すべり機構 …………… 15編  
地すべり調査 …………… 14編  
地すべり計測 …………… 14編  
対策・施設維持管理 ……… 14編  
斜面安定 …………… 12編  
事例報告 …………… 25編

#### 特別セッション1

「日本の斜面对策工の歴史」 4編

#### 特別セッション2

「地すべり地形のリスク評価法の新展開」 ……9編

#### 特別セッション3

「令和6年能登半島地震」 ……15編

#### 特別セッション4

「英語発表セッション」 ……10編



▲研究発表会の様子



▲新技術セッションの様子

## (2) ポスターセッション

ポスターセッションは45編の発表があり、9月19日のコアタイムでは、発表者の説明に多くの人が耳を傾け積極的な意見交換が行われました。



▲ポスターセッションコアタイムの様子

(担当 工藤唯志)

## 4. 新技術セッション

新技術紹介セッションは、研究発表会と併行して9月18日と19日の2日間にわたり開催しました。当初36ブースの出展を予定しておりましたが、幹事の皆さんの声かけが功を奏し、出展の申し込みが順調に推移しました。そのため、急遽ブースを追加し、最終的には40ブース(38社)の出展をいただきました。

今回は特に、以下の工夫を行いました。

- ・会場配置；ブースへの来場者増を図るため、出入口付近、ポスターセッションに挟まれる形の配置とした。
- ・意見交換会への招待：ホスピタリティ向上のため、1ブースにつき1名、意見交換会へ無料招待した。

上記工夫も相まって、「コミュニケーションを図る場としてとても有意義だった」、「今回のセッションはパーフェクト」との感想をいただきました。

手前みそながら、次回以降の継続参加、また今大会の収支に貢献できたのではないかと考えております。

(担当 小林基比古)

## 5. 意見交換会

開会式当日(18日)の夕方、立食パーティー形式の意見交換会を開催しました。事前申し込み348名と当日申し込み55名に、来賓7名、新技術40名を加えた計450名に御参加頂きました。会場のホテルメトロポリタン仙台さんのご厚意で、4Fの宴会場千代の全フロア(1000㎡)を格安で使わせてもらったので助かりました。牛タン、日本酒も予算内で可能な範囲で準備してみましたが、どうやらお寿司が足りなかったようで、ちょっと失敗。地酒は、担当幹事石川晴和さん御両親のお店紹介の専門店にお力をお借りし、宮城の秋酒を中心にそろえてみました。直前の9月上旬、某土木学会さんも同じ会場で500名程での意見交換会をされたようですが、ホテルの担当者曰く、牛タン・日本酒の数は、我々地すべり学会の方がはるかに上回っていたとのこと。経費削減で司会を半ば強引に室伏文佳さん(国土防災技術株)にお願いしておりましたが、人選に間違いはなかったようで、ベトナム災害義援金発起人の若井先生から「てっきりプロだと思ってましたよ!」とお褒めのお言葉を頂きました。中締めも、先輩方の“バンザ〜イ”で大いに盛り上げて頂きました。来年も楽しみです、是非発表エントリーして奈良の意見交換会にも参加しましょう!



▲意見交換会の様子(司会は室伏さん)



▲宮城県の地酒



▲歴代支部長の素敵なツーショット

(担当 渡辺修)

## 6. 現地見学会

大会最終日の9月20日(金)に下記の3コースを対象として現地見学会を実施しました。

- ・Aコース：荒砥沢地すべり・栗駒山麓ジオパーク見学
- ・Bコース：東日本大震災伝承施設見学
- ・Cコース：丸森町豪雨災害・津波災害からの復旧復興

参加者は、Aコース45名、Bコース29名、Cコース39名と多数の参加をいただきました。

見学会当日は、朝から雷鳴とどろく悪天候からのスタートとなり、全工程が無事に終了するか心配されましたが、見学場所の修正や時間調整等を行いながら、無事に終了することができました。各コースの概要は以下の通りです。

### (1) Aコース

2008年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震により栗駒山の山腹を中心に約3,500カ所の斜面崩壊等が発生しました。本コースは、宮城県栗駒市の土砂災害の記録が多く残る栗駒山麓ジオパークビジターセンターを見学し、マイクロバス2台に分乗して国内最大級の地すべりである荒砥沢地すべりの全景や地内の見学及び荒砥沢ダム事務所の展示物の見学などを行いました。

### (2) Bコース

2011年3月11日(金)14時46分に三陸沖を震源として発生した東北地方太平洋沖地震により誘起された巨大津波により甚大な被害を受けました。本コースでは東松島市の東日本大震災の伝承施設群を見学し、その後松島に移動し、クルーズ船で松島湾内の島々を見学及び船内での語り部による震災当時の松島における被害状況を拝聴しました。また塩釜煎餅工場見学及び煎餅焼き体験を行いました。

### (3) Cコース

令和元年10月に発生した豪雨により宮城県丸森町では多くの土砂災害や洪水氾濫が発生しました。本コースでは丸森町内の豪雨災害復旧工事現場を見学し、東日本大震災の震災遺構仙台市立荒浜小学校、深沼海岸での仙台海岸における海岸施設に関する説明をいただき、鐘崎笹かま館を見学しました。

### (4) 現地見学会アンケート結果

参加者にアンケートを実施し、現地見学会の満足度を総合的に評価してもらった結果、「とても満足」、「やや満足」が97%であり、満足度の高い現地見学会になったと思います。



▲現地見学会の様子(Aコース)



▲現地見学会の様子(Bコース)



▲現地見学会の様子(Cコース)

(担当 熊井直也)

## 6. おわりに

昨年4月に準備委員会を立上げてから約1年半、大会の成功を目標に準備を進めて迎えた当日は、不安と期待が交錯する何とも落ち着かない気持ちでした。本大会において、はじめて導入したQRコードの受付は大きなトラブルも無く機能し、来場した皆さまを待たせることなく、スムーズに入場して頂くことができました。また、大会終了後のアンケートでは、大会会場全体のワンフロアでコンパクトな配置や動線を意識した新技術セッションとポスターセッション、休憩所の集約、意見交換会の司会進行や飲食物の質と量に満足度の高い評価を頂きました。一方で、講演者の音声聞き取り難かった、弁当配置箇所が分かり難い等のご指摘も受けました。これらの点は次年度に活かすべく、奈良大会の実行委員会へ引継ぎたいと思います。大会最終日の現地見学会当日は、それまでの快晴と打って変わり生憎の雨模様となりましたが、各コースとも行程をキャンセルすることも無く、全日程を完了することができました。これまでの苦勞が報われた瞬間でした。本大会の協賛・後援等にご協力頂いた関係者の皆様、そして実行委員会・幹事会、スタッフとしてご尽力して下さった皆様のおかげです。感謝申し上げます。



▲大会終了後のスタッフ集合写真

(担当 大村泰)

# 2024年度 東北支部総会議事内容

開催場所：トークネットホール仙台(仙台市民会館)展示室

開催日時：2024年5月17日(金) 14:00~15:00

総会進行：瀬野幹事長 議事進行：森口支部長

壇 上：森口支部長 高見副支部長 瀬野幹事長 大澤事務局長

参加者：リモート出席8名、会場出席45名(正会員) 委任状45名 合計98名

\*東北支部運営規則第14条により、定足数82名(会員数163名の1/2以上)を満たし総会は成立した。

## 第1号議案 2023年度事業報告

### ■総会：2023年5月12日

(仙台メディアテーク7Fスタジオシアター)

- 総 会：リモート出席14名、会場出席44名、委任状44名 計102名
- 意見交換会：ホテルグランテラス仙台国分町

### ■役員会、運営委員会、幹事会、委員会

#### ○役員会

- ・2023年4月19日(9名)：2022年度事業計画2023年度研究発表会及び現地見学会開催に関する協議
- ・2024年3月29日(27名)：2023年度事業実施報告及び2024年度事業計画に関する協議

#### ○幹事会：宮城大会幹事会とかねて開催

- ・2023年5月12日(23名)：宮城大会準備会として計画立案、会場選定について協議
- ・2023年7月5日(32名)：宮城大会開催概要ならびに組織体制、実施計画、収支予算(案)に関する協議、2023年度東北支部現地検討会についての協議
- ・2023年8月25日(29名)：宮城大会の準備進捗、実施計画に関する協議
- ・2023年11月10日(29名)：2023年度事業実施報告(講演会・研修会・現地検討会)、宮城大会実施計画及び収支予算(修正)に関する協議
- ・2024年2月5日(27名)：宮城大会行程、受付システム、運営方法、県民講演会ほか各行事に関する協議
- ・2024年3月29日(26名)：2023年度事業報告及び2024年度事業計画の確認、宮城大会行事に関する協議

#### ○運営委員会

- ・2023年3月29日(27名)：2023年度事業実行状況の報告、2024年度事業計画及び方針、2024年度総会議案書の審議、宮城大会に関する進捗状況報告

#### ○宮城大会関係

- ・準備会 2023年3月10日、5月12日、7月5日、8月11日
- ・幹事会 2023年8月25日、11月10日、2024年2月5日
- ・実行委員会 2023年11月10日(第1回)
- ・本部事業計画部 2023年9月21日、12月4日、2024年2月9日

### ■講演会

#### ○第1回講演会

- ((一社)建設コンサルタンツ協会 CPD認定 2.00単位)
- ・2023年5月17日：せんだいメディアテーク7Fスタジオセンター(参加179名)
- ・「土砂災害対策の現状と今後の課題」 国土交通省東北地方整備局河川部長 板屋 英治氏
- ・「個別要素法における土砂流動・落石シミュレーションの不確実性の定量化」 東北大学災害科学国際研究所 准教授 森口周二氏

#### ○第2回講演会

- ((公社)土木学会 CPD認定 3.40単位(災害報告会含む)
- ・2023年7月28日：東北支部会議室(参加138名)
- ・「地すべり地の動態観測へのデータサイエンスの応用事例ー状態空間モデルによる間隙水圧のベイズ推定法ー」 秋田大学大学院理工学研究科准教授 荻野 俊寛氏

### ■東北支部地すべり現地検討会

- ((一社)建設コンサルタンツ協会 CPD認定 6.25単位)
- ・開催場所：宮城県栗原市「荒砥沢地すべり」
- ・開催日及び参加者：2023年10月19日~10月20日 参加42名(4年ぶりの宿泊開催)
- ・テーマ「地すべりの地質遺産としての保全とモニタリング手法を考える」
- ・国内最大級の地すべり地とジオパーク活動との関係を踏まえ、その保全とモニタリングの考え方と手法について意見交換と討論を行った。

### ■災害調査及び調査報告会

- 鶴岡市西目地区斜面災害現地調査 2023年4月23日(参加20名)
- 西目地区災害現地調査報告会 2023年7月28日(会場参加29名、オンライン参加109名)
- ・調査報告 被災地周辺の地質と風化状況(山形大学：本山 功・井村 匠)
- ・地形復元から見た地形変化の影響(山形大学：八木 浩司、防災科学研究所 佐藤 昌人・山田 隆二、奥山ボーリング：林 一成・ディー パック ラジュ バート)
- ・水文解析から見た地下水変化予測(水文企画：渡辺 修)
- ・風化による土質劣化と土質特性(国土防災技術：柴崎 達也)
- ・初期救命活動(消防研究センター 新井場公徳)
- ・西目地区地すべり対策について(山形県、日本工営：工藤 唯志)

### ■研修会

支部若手会員向けの地形判読と地すべり危険度評価について「斜面防災危険度評価ガイドブック」をテキストに、グループワーク形式で実践的な研修を3回実施した。

- ・第1回 2023年4月27日「地すべり地形の判読と評価」参加28名
- ・第2回 2023年7月4日「空中写真による地すべり危険度評価」参加29名
- ・第3回 2023年11月9日「数値地形情報による地すべり評価への展開」参加18名

### ■広報活動等

- 支部だより第34号の発行(2023年12月20日) 印刷部数235部、発送部数227部
- 支部ホームページの更新、情報発信、各種事業案内・参加募集、支部行事等の掲載など

## 第2号議案 2023年度収支決算報告及び会計監査報告

(収益)

(単位：円)

勘定科目			2023年度予算 b	2023決算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			1,710,020	1,881,736	171,716	
	事業収益		1,050,000	1,050,800	800	
		シンポジウム収益	300,000	288,000	△ 12,000	講演会 対面WEBハイブリット開催
		現地検討会収益	630,000	613,800	△ 16,200	現地開催
		技術講習会収益	120,000	149,000	29,000	3回開催
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		660,000	680,000	20,000	34社×2万
	雑収益		0	936	936	
	受取利息		20	0	△ 20	
	預り金		0	0	0	
	助成金		0	150,000	150,000	若手対策事業費
本部仮払金			0	0	0	
当期収益合計 (A=支部収益+本部仮払金)			1,710,020	1,881,736	171,716	

(費用)

(単位：円)

勘定科目			2023年度予算 b	2023決算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			1,852,000	1,577,000	△ 275,000	
	事業費		1,504,000	1,339,300	△ 164,700	
		シンポジウム会費	354,000	359,770	5,770	
		現地検討会費用	732,000	611,945	△ 120,055	現地開催
		技術講習会費用	105,000	0	△ 105,000	若手講習会はその他 事業費に計上
		※その他事業活動	313,000	367,585	54,585	上記の3つ以外の活動費
	管理費		348,000	237,700	△ 110,300	
当期費用合計 (B)			1,852,000	1,577,000	△ 275,000	
当期収支差額 (C=A-B)			△ 141,980	304,736	446,716	
当期末収入金(E)			0	0	0	
前期末払金			0	0	0	
前期前払金			0	0	0	
前期前払金(F)			0	0	0	
前期繰越額 (D)			1,089,457	1,089,457	0	
次期繰越額(D+C-E+F)			947,477	1,394,193	446,716	

※各小科目の詳細については支部ホームページ「支部情報：議案書」に掲載しております。

## 会計監査報告

2023年度(公社)日本地すべり会東北支部会計監査の結果、適正に処理されていることを認めます。

2024年4月1日

会計監事 渋谷 保  
会計監事 橋本 修一



## 第3号議案 2024年度事業計画

- 支部総会：2024年5月17日  
(トークネットホール仙台展示室：参加98名)  
○ 支部総会は対面参加を基本としてオンライン参加を併用したハイブリッド開催とした。  
○ 意見交換会：TKPガーデンシティ仙台勾当台

- 役員会、運営委員会、幹事会、委員会  
○ 支部事業の企画立案、運営に関し随時開催し、実施状況のフォローアップを行う。  
○ 今年度は宮城大会開催に向けた準備を中心に、支部会議は大会幹事会とかねて開催する。  
・ 宮城大会の各行事の企画立案及び進捗管理、予算管理及び大会運営に係る協議

- 講演会・研究発表会：事業企画委員会  
○ 斜面変動研究のワーキング  
・ 支部若手～中堅会員を対象とした研究、情報交換の場としての実施し、成果を支部内(研究発表会、HP等)で発信、共有予定  
・ 研究グループごとにテーマに沿って年間に複数回実施予定  
\* テーマ例：地下水、AI技術やDXの地すべり調査等への活用

### ○ 講演会

- ・ 第1回講演会 (支部総会後に開催)  
「リアルタイム地震動予測と構造ヘルスマニタリング」  
山形大学工学部建築・デザイン学科教授  
三辻 和弥 氏  
「すべり面抵抗力を粘性モデルで評価する－複雑な地すべり挙動を理解するための試み」  
日本大学工学部土木工学科専任講師  
梅村 順 氏
- ・ 第2回は7月下旬以降に開催予定
- ・ 地すべり調査、研究に関連する話題提供と講演、及び支部ワーキング成果の発表を行う。

- 研修会：研修委員会  
・ 若手育成事業費を活用し、支部若手会員向けに「斜面防災危険度評価ガイドブック」の実践的活用をテーマに、若手地形解析者の育成を目的に複数回開催する。  
・ 2024年6月、8月及び10月に開催予定

- 災害調査派遣及び現地検討会：巡検計画委員会  
○ 東北地方における広域的または重大な災害に対する緊急調査  
・ 本部との連携や調査団の結成手順を整理し、他学会及び協会と連携して調査に参画する。  
○ 今年度の現地検討会は宮城大会へのサポートを行うために実施しない。

- 支部だより：広報委員会  
・ 支部だより第35号の発刊(2024年12月)及びホームページの更新及び情報発信  
・ アウトリーチ連絡会との連携を図りながら支部事業の宣伝活動を通して会勢拡大を図るほか、学校や自治体の防災教育、技術研修会へ講師を派遣する。  
・ 「地すべり調査・設計に関する技術講座」の開催立案を検討する。

### ■ 第63回研究発表会及び現地見学会関係の予定

- 実行委員会 2024年8月  
・ 大会プログラム及び各行事日程及び収支予算計画(案)の承認
- 幹事会  
・ 第4回幹事会 2024年5月  
来賓及び後援依頼、大会運営及び各行事計画の準備状況の報告
- ・ 第5回幹事会 2024年7月  
本部事業計画部会議の報告、各行事の日程調整及びスタッフマニュアルの整備
- ・ 第6回幹事会 2024年8月  
各行事部会の直前打合せ及び調整事項の確認



▲2024年度支部総会の様子



▲2024年度支部総会の監査報告

## 第4号議案 2024年度収支予算案

(収益)

(単位：円)

勘定科目			2023予算 b	2024予算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部収益			1,710,020	1,382,500	△ 327,520	
	事業収益		1,050,000	552,500	△ 497,500	
		シンポジウム収益	300,000	357,500	57,500	講演会 対面WEBハイブリット開催
		現地検討会収益	630,000	0	△ 630,000	全国大会のため見送り
		技術講習会収益	120,000	195,000	75,000	3回開催予定
		出版収益	0	0	0	
	協賛・寄付		660,000	680,000	20,000	34社×2万
	雑収益		0	0	0	
	受取利息		20	0	△ 20	
	預り金		0	0	0	
	助成金		0	150,000	150,000	
本部仮払金			0	0	0	
当期収益合計 (A=支部収益+本部仮払金)			1,710,020	1,382,500	△ 327,520	

(費用)

(単位：円)

勘定科目			2023予算 b	2024予算 a	増減 a-b	備考
大科目	中科目	小科目				
支部費用			1,852,000	1,376,100	△ 475,900	
	事業費		1,504,000	1,019,000	△ 485,000	
		シンポジウム会費	354,000	476,000	122,000	講演会 対面WEBハイブリット開催
		現地検討会費用	732,000	0	△ 732,000	全国大会のため見送り
		技術講習会費用	105,000	71,000	△ 34,000	3回開催予定
		※その他事業活動	313,000	472,000	159,000	上記の3つ以外の活動費
	管理費		348,000	357,100	9,100	
当期費用合計 (B)			1,852,000	1,376,100	△ 475,900	
当期収支差額 (C=A-B)			△ 141,980	6,400	148,380	
前期未収入金			0	0	0	
前期未払金			0	0	0	
当期前払金			0	0	0	
前期前払金			0	0	0	
前期繰越額 (D)			1,089,457	1,394,193	304,736	
次期繰越額 (D+C)			947,477	1,400,593	453,116	

※各小科目の詳細については支部ホームページ「支部情報：議案書」に掲載しております。

# 2024年度 東北支部役員・運営委員・アドバイザー(敬称略)

2024年5月17日現在

支 部 長	森口 周二 (東北大学災害科学国際研究所准教授)	顧問	盛合 禧夫 (東北工業大学名誉教授)
副支部長	高見 智之 (国際航業(株)東北支社技術部長)		千葉 則行 (東北工業大学名誉教授)
監 事	渋谷 保 (日特建設(株)東北支店技術フェロー)		檜垣 大助 (弘前大学名誉教授)
	橋本 修一 ((株)東北開発コンサルタント調査役)		宮城 豊彦 (東北学院大学名誉教授)
運営委員	梅村 順 (日本大学工学部土木工学科専任講師)		八木 浩司 (山形大学名誉教授)
	大月 義徳 (東北大学大学院理学研究科助教)		井良沢道也 (岩手大学名誉教授)
	鄒 青穎 (弘前大学農学生命科学部地域環境工学科講師)		大河原文正 (岩手大学理工学部教授)
	山川 優樹 (東北大学大学院工学研究科教授)		
	荻野 俊寛 (秋田大学大学院理工学研究科准教授)	アドバイザー	国土交通省東北地方整備局河川計画課課長
	本山 功 (山形大学理学部地球科学分野教授)		国土交通省東北地方整備局新庄河川事務所所長
	三辻 和弥 (山形大学工学部建築・デザイン学科教授)		農林水産省東北農政局農村振興部農村環境課地質官
	近藤 敏光 (国際航業(株)東北統括部国土保全G担当部長)		林野庁東北森林管理局計画保全部治山課課長
	荻田 茂 (奥山ボーリング(株)技術部専任部長)		東日本高速道路(株)東北支社技術企画課課長
	伊藤 靖雄 (大日本ダイヤコンサルタント(株)東北支社技術2部部長補佐)		東日本旅客鉄道(株)仙台支社工事課課長
	三嶋 昭二 (東北ボーリング(株)技術本部技術顧問)		東北電力(株)再生エネルギーカンパニー水力部水力土木課長
	押見 和義 (株)復建技術コンサルタント技師長)		奥山 信吾 ((一社)斜面防災対策技術協会東北支部支部長)
	渡辺 修 ((同)水文企画代表)		阿部 真郎 (奥山ボーリング(株)顧問)
	熊井 直也 (国土防災技術(株)山形支店支店長)		三上登志男 ((株)復建技術コンサルタント技師長)
	工藤 唯志 (日本工営(株)仙台支店国土保全部長)		濱崎 英作 ((株)アドバンテクノロジー社長)
	大村 泰 (奥山ボーリング(株)技術部首席次長)		山科 真一 (国土防災技術(株)常任顧問)
			八鍬 健 ((株)日さく仙台支店支店長)

## 幹事会

区 分	委 員 会	氏 名	所 属	名 称	実行内容
幹 事 長		瀬野 孝浩	(株)新東京ジオ・システム	事業企画	支部総会・シンポジウム、他学会・協会との交流活動についての企画・運営、斜面変動コロキウムの実行
副幹事長	事業企画	渡辺 修	(同)水文企画		
	巡検計画	熊井 直也	国土防災技術(株)		
	広 報	大村 泰	奥山ボーリング(株)		
	研 修	工藤 唯志	日本工営(株)		
幹 事	事業企画	穴戸 拓磨	川崎地質(株)	巡検計画	地すべり現地検討会の企画・開催、災害時の調査団派遣検討及び調査報告書の作成
		今井 雄輝	応用地質(株)		
		高橋 康平	国土防災技術(株)		
	巡検計画	石川 恵司	(株)日さく	広 報	支部活動に関わる情報提供や広報活動、支部HP運営・管理、支部だよりの作成・配布、社会貢献・会勢拡大活動(アウトリーチ・会員数対策連絡会と連携)
		細谷 健介	新和設計(株)		
		山本 佑介	(株)復建技術コンサルタント		
	広 報	小林 卓矢	大日本ダイヤコンサルタント(株)	研 修	会員または一般向け技術研修会の企画・運営
		石川 晴和	(株)アドバンテクノロジー		
		黒墨 秀行	(株)総合土木コンサルタンツ		
	研 修		池田 浩二	(株)東北開発コンサルタント	
中臺 直之			(株)新東京ジオ・システム		
小林基比古			日本工営(株)		
会計・事務局		鈴木 真悟	奥山ボーリング(株)		
		大澤 宏明	(株)復建技術コンサルタント		

## 2024年 活動報告(事業企画委員会、研修委員会)

第63回研究発表会および現地見学会(宮城大会)が開催された今年は、当大会の現地見学会の運営に注力するため、支部活動の一環である現地検討会を休止しましたが、講演会と若手講習会は例年通り開催しました。

### 第1回 講演会

日 時：2024年5月17日(金)15:00~17:00  
形 式：対面およびオンライン(Microsoft Teams 利用)  
会 場：トークネットホール仙台(仙台市民会館)B1展示室  
参加人数：129名

#### 話題提供

「リアルタイム地震動予測と構造ヘルスマonitoring」  
山形大学工学部 建築・デザイン学科教授 三辻 和弥 氏  
「すべり面抵抗力を粘性モデルで評価する  
—複雑な地すべり挙動を理解するための試み—」  
日本大学工学部 土木工学科専任講師 梅村 順 氏

### 第2回 講演会・研究発表会

日 時：2024年8月30日(金)13:30~16:30  
形 式：対面およびオンライン(Microsoft Teams 利用)  
会 場：復建技術コンサルタント4階会議室  
参加人数：100名

#### 話題提供

「1本のボアホールから一既存観測孔でできること—」  
元 山形大学 奥山 武彦 氏  
「地すべりに関わる地下水、未解決で興味深い話題」  
新潟大学 災害・復興科学研究所 渡部 直喜 氏  
「新潟県伏野地すべりにおける間隙水圧計設置の取り組みと観測事例」  
国土防災技術(株) 土佐 信一 氏  
「地すべり東北支部「地下水に関するワーキング(勉強会)」立ち上げに際して  
事業企画委員会 渡辺 修 氏

### 若手講習会 一斜面防災危険度評価ガイドブックの事例と実際—

日 時：第1回 2024年 7月 5日(金)13:00~17:00  
第2回 2024年10月 8日(火)13:00~17:00  
第3回 2024年11月26日(火)13:00~17:00

形 式：対面(参加人数 第1回30名、第2回14名、第3回15名)  
会 場：復建技術コンサルタント4階会議室  
講習内容：「地すべり地形の判読と評価」  
「DEM 処理・作図と立体視」  
「数値地形情報による地すべり評価への展開」



▲赤青メガネで立体視する参加者の様子(若手講習会 7月開催)

## 支部協賛会社(34社)

支部活動は、協賛いただいている各企業の協賛金と皆様のマンパワーにより支えられております。支部活動の拡大・活性化のために、今後とも一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(一社)斜面防災対策技術協会 東北支部  
(株)アサノ大成基礎エンジニアリング 東北支社  
(株)アドバンテクノロジー  
応用地質(株) 東北事務所  
奥山ボーリング(株)  
川崎地質(株) 北日本支社  
基礎地盤コンサルタンツ(株) 東北支社  
(株)計測技研  
国際航業(株) 東北支社  
国土防災技術(株) 東北支社  
(株)新東京ジオ・システム  
新和設計(株)  
(同)水文企画  
(株)総合土木コンサルタンツ  
(株)測商技研 秋田支店  
(株)ダイヤコンサルタント 東北支社  
(株)地質基礎

中央開発(株) 東北支店  
(株)テクノ長谷  
東光計測(株)  
東邦技術(株)  
(株)東北開発コンサルタント  
東北ボーリング(株)  
土木地質(株)  
日栄地質測量設計(株)  
(株)日さく 仙台支店  
日鉄鉦コンサルタント(株) 東北支店  
日特建設(株) 東北支店  
日本基礎技術(株) 東北支店  
日本工営(株) 仙台支店  
(株)平野組  
(株)復建技術コンサルタント  
(株)北杜地質センター  
ライト工業(株) 東北統括支店

## 編集後記

9月4日、支部顧問の盛合先生が92歳でご逝去されました。千葉先生が寄稿くださった追悼文を拝読し、改めて盛合先生の偉大な功績を感じるとともに、福島県内の現場と一緒に踏査して下さった日が懐かしく思い出されます。心からご冥福をお祈りいたします。本号では、支部の総力を結集して盛合に終わった宮城大会の振り返りを中心に、今年の活動内容を報告しております。広報委員として支部だよりの作成に携わってから6回目の編集作業となりますが、年末の大変忙しい時期

にもかかわらず、執筆依頼を毎年快く引き受けてくださる皆さまに深く感謝申し上げます。2024年も能登半島地震をはじめとして大きな災害が発生しました。災害大国と呼ばれる日本に住む限り、災害のリスクから逃れることはできません。それ故、地域の斜面防災に関わる私たちの知識や活動への期待も高まっていると思います。東北支部では、来年も皆様のご期待に沿えるよう活動して参りますので、引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。(大村 泰)

## 広報委員会

委員長 大村 泰(奥山ボーリング)  
委 員 黒墨秀行(総合土木コンサルタンツ)  
池田浩二(東北開発コンサルタンツ)  
石川晴和(アドバンテクノロジー)  
事務局 大澤宏明(復建技術コンサルタンツ)